

名古屋都市圏の「見えない格差」とコミュニティ・ウェルビーイング（2）

——コミュニティの特性は“地縁”の形成に影響を与えるか——

椋山女学園大学 木田勇輔

1 目的

「都心回帰」や「都市の分極化」が指摘される中で、近年の日本では都市内部に生み出された地域間格差に着目する議論が行われてきた（橋本 2011）。本報告で問いたいのは、都市内部の地域間格差が“地縁的ネットワーク”（＝町内会・自治会などの地域住民組織を中心に形成されてきた地域内ネットワーク）にどの程度影響を与えているのかという点である。先行研究では市区町村単位でのソーシャル・キャピタルの格差に注目した研究はあるが（辻・佐藤編 2014）、都市内部の地域間格差に着目した研究は少なく、また地域内のネットワーク形成との関連を検討したものは少ない。本研究では、かつて松本康らが研究を行ってきた名古屋市を研究対象として、①名古屋市におけるコミュニティの類型化を行いそれぞれの地縁的ネットワークの強弱について明らかにするとともに、②コミュニティの社会経済的特性（とくに階層的構成）が地縁的ネットワークの形成にどの程度結びつくのかという点を検討したい。

2 方法

使用するデータは平成 27 年国勢調査の学区別の集計データと、名古屋市が発表している学区別生活環境指標の町内会推計加入率（2015 年）である。このうち、町内会推計加入率は各学区の地縁的ネットワークの指標として捉えることができる。まず、名古屋市内のコミュニティを類型化して把握するために階層的クラスタ分析を実施し、名古屋市のコミュニティを類型化して把握する。次に学区ごとの町内会推計加入率を従属変数とした回帰分析を行い、地縁的ネットワークの形成を規定する社会・経済的要因を明らかにする。

3 結果

現時点で得られている分析結果は以下のとおりである。第一に階層的クラスタ分析では解釈可能性という観点から 7 つのクラスタを抽出した。クラスタのタイプごとに町内会推計加入率の平均を見ると、都心型や駅前型のクラスタで加入率が低い傾向がある。第二に、回帰分析の結果からは正規雇用比率の高さや移動人口の少なさが学区単位での町内会の加入率を高める一方で、ホワイトカラー比率の効果は見られなかった。

4 結論

今回の分析結果からは、コミュニティの階層的構成が地縁的ネットワークの形成に影響を与えているとは言えない。その一方で、正規雇用比率や移動人口などで示されるようなコミュニティの社会的流動性は地縁的ネットワークに影響を与えていると考えられる。

文献

橋本健二, 2011, 『階級都市——格差が街を侵食する』ちくま新書.

辻竜平・佐藤嘉倫編, 2014, 『ソーシャル・キャピタルと格差社会——幸福の計量社会学』東京大学出版会.